

氏 名	本田 健
学 位 の 種 類	博士（医学）
学 位 記 番 号	甲第392号
学位授与年月日	平成24年12月26日
審 査 委 員	主査 教授 北垣 一
	副査 教授 並河 徹
	副査 臨床教授 徳島 武

論文審査の結果の要旨

2011年作成の肺腺癌新国際分類では上皮内癌や微小浸潤性腺癌は5年生存率が100%近い。申請者は術前に肺腺癌の予後を予測することを目的としてCT画像と病理分類の関係を検討した。

対象は手術を施行された病理腫瘍径2cm以下の肺腺癌300病変である。

方法は術前CTで肺野条件での腫瘍径と縦隔条件での腫瘍径の比である消失率を求め、消失率50%以上を含気型、50%未満を充実型とし、病理分類と比較した。さらにCT所見の血管収束像、気管支透亮像、胸膜陥入像、ノッチと病理分類を比較した。

その結果、CTで含気型の142病変は病理学的に上皮内癌または微小浸潤性腺癌であり、浸潤性腺癌は認めなかった。また、病理で上皮内癌や微小浸潤性腺癌であった196病変にはCT所見で気管支透亮像が93%と多く認められた。一方浸潤性腺癌104病変にはノッチが72%と多く認められた。

以上から、CTで含気型病変は全て予後良好な上皮内癌か微小浸潤癌であり、術前CTで肺腺癌の予後予測が可能である。これは臨床的に有用な新知見であり、学位授与に値すると考えた。